



夜な夜な短歌集

2014年 夏号

夜な夜な短歌人紹介



Sageさん



tetsuyaさん



nonたんさん



七色一味さん



新地学さん



masa

夜な夜な短歌人紹介



せんむさん



華さん



Juneさん



雪さん



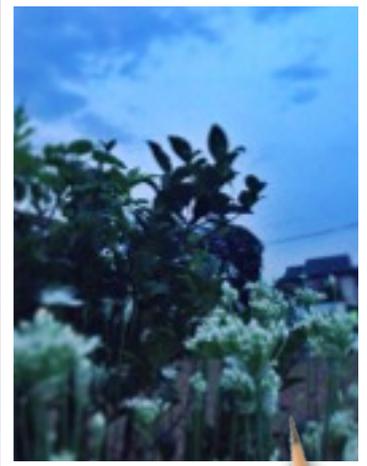
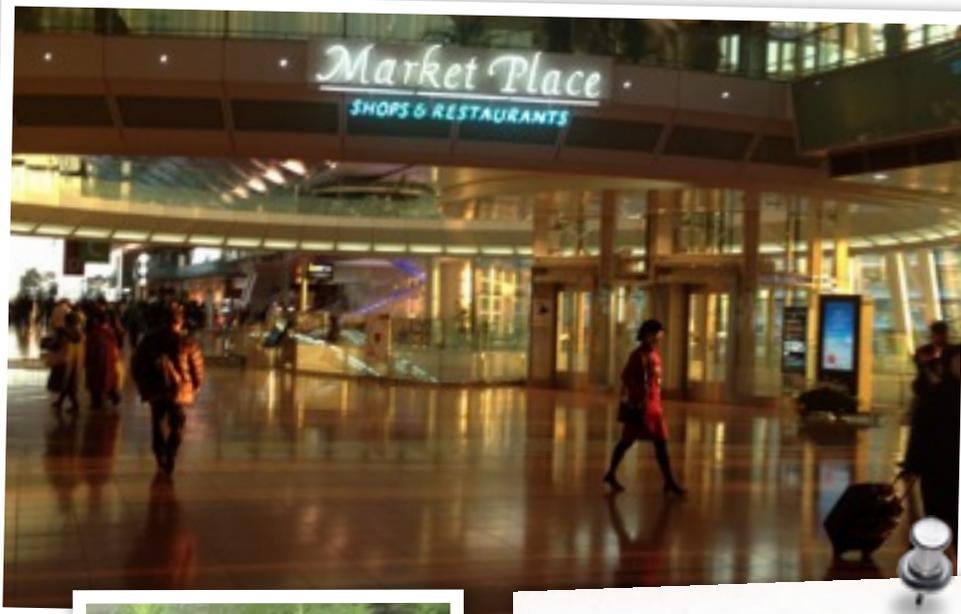
seriさん



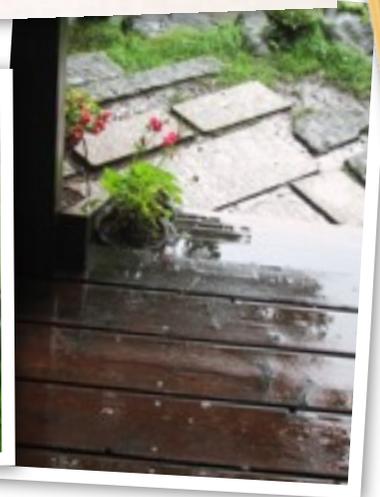
momongaさん



レイさん



彩りがあざやかな夏。
あの時の思い出がこぼれ落ちる。
今この瞬間が形づくられる。
夏は、すべての事象をより深く心に刻みつけ
るような気がする…。



夜な夜な短歌集の春号を発刊してから、早いもので3ヵ月が経ちました。その3ヶ月の間もメンバーは日々短歌を詠み、そしてコミュニティのメンバーも60名を超える盛況ぶりです。みんなの短歌の情熱と意気込みがこの歌集で伝わればよいなと願うばかりです。前号につづき、今回もテーマを設けています。夏号のテーマは、「夏」「雨」「恋」「怪」にしてみました。あなたの夏はどこにあるでしょうか？良かったら、一首ずつあじわいながら夏号を楽しんでみてください。

Sageさんの短歌

せせらぎの流れ都会の溪谷にシュポンと響くラムネの硝子

雨の日を最後の逢瀬に決めたのは頬濡らしても強がれるから

井戸の底きらり一筋光見えくるり廻りて二秒のち闇

tetsuyaさんの短歌

戯れにヒマラヤの地図を壁に掛け氷河思いて暑さ忘るる

梅雨去ると聞けばそわそわ何故となく自転車飛ばす海が見たくて

あと少し暑さこらえてあの角を曲がれば涼し潮風の道

nonたんさんの短歌

この恋に名前をつけて埋めてやる
きみとあいつの祝福の庭

おおつぶの雨の雫をつかみとる
おおごえあげて泣いてもいいか？

真夜中に軋む物音怪しい手
だあれだ？
と覆う、
きみが笑顔で

七色一味さんの短歌

下
ネ
タ
を

挨
拶
が
わ
り
に
フ
ル
あ
い
つ

お
調
子
者
で
:
:
で
も
、

大
好
き

ド
キ
ド
キ
が

蝉
し
ぐ
れ
ま
で
か
き
消
し
て

下
ろ
す
踵
が

雲
を
踏
む
よ
う

あ
っ
つ
つ
い
ね
え
:
:
あ
お
ぐ
団
扇
の
そ
の
先
の

桃
の
果
の
ほ
ほ

ひ
と
筋
の
汗

新地学さんの短歌

憧れが満ちる心の美しさ君の瞳の澄んだ輝き

街灯の下に立つのはいつの我霧降る夜の妖しき童話

くちなしの香りただよう夕闇に音符のような新月浮かぶ

masaの短歌

織り姫がほほえみながら降りてくる
天の川で会うキミはうつくしい

溶けてゆく
形なくして消えてゆく君に会えないことが心のこりだ：
：

課してみる可否も是非も問わないで有無を言わせないあなただから好き

せんむさんの短歌

ひまわりの

陽^ひをも貫く勢いに

我が身重ねる

桜梅桃李

打たれても

吹かれても尚たおれずに

涼しい顔の

細き野の花

波くだけ

風が唸るそんな夜は

恋しい心が

暴れる様で

華さんの短歌

情熱の36℃で焼かれてタマシイがお留守になるわたし

しんなりと肌に染み入る小糠雨きみは気づかぬふりをするしか

熱帯夜
あなたとわたしもういらぬ溶けてまぎってきえてなくなる

Juneさんの短歌

はりつめた糸がほどけてその腕に
ばちんとなった
目を閉じる時

美味しいねまた来たいねと彼の声リフレインする潮騒の香り

音が好き
無理にはしやいだ君の顔照らす花火が胸に響いて

雪さんの短歌

優しい手はにかむ笑顔茜空ずっと一緒にいたかったのに

くつきりと残った傷を撫でてみる優しく優しく消えないように

ごめんなさい小さな傘しか持ってないあなたの肩が濡れてしまうね

seriさんの短歌

かぐわしき夏のおい
にうたれては心に
しみる君のぬくもり

水鏡ひろがる空の
色深くあめの海に
も七色わたす

的にすら当たらぬ君の
下手な矢を追っている
うち落ちていている恋

momongaさんの短歌

蝙蝠がせわしい夜は淵が開く
入り込んでしまおう人がいる

駅までの雨に感謝を捧げたい
ロッカーの傘を撫でて愛でたい

後れ毛に感じるあなたの息づかい
頬の花火は宵闇に隠す

レイさんの短歌

それちようだいひとくちねだったその口にひんやり冷えた舌差し込まれ

夏の夜きみに抱かれた駐車場 苦い記憶も今は更地に

大量のドライアイスの使いみち 知らないほうが幸せでした

短歌人からひとこと

Sageさん



《せせらぎの》等々力溪谷を歩いた「夏」の日の印象をラムネの音に込めました。《雨の日を》「雨」のなかに「恋」の残り香をほんの少しだけ。せめて、強がりしたいという気持ちを伝え《井戸の底》「怪」を文字だけで表現するのは難しく、リズムと空白で二秒をつくりました。

tetsuyaさん

青春の十余年を福岡博多で過ごし、つまらない病気で人生を失い今は北海道の山奥で暮らしています。今回は夏号ということでしたが、夏の実感などこの地にはありません。昔詠んだ歌をかき集めての参加というかたちになりました。



nonたんさん

nonたんです！初参加させていただきます。春号にやられてしまいました。夏号に是非とも参加したくて、歌集ばかり読み漁り、日々変な歌を詠っています。今回は「怪」「雨」「恋」を詠いました。連作にしたつもりです。続けていくとストーリーがあるような。「夏」があれば未来もみえるかな？



七色一味さん

ここに掲載の短歌は、いずれも別の形で、一度は『夜な夜な短歌』の方に投稿したもので、よく言えば推敲、まあ、ぶっちゃけリメイク？（笑）底の浅い歌ばかりですが、他の方々の、まあ、箸休めとでも思って頂ければ幸いです。



新地学さん

自分で短歌を詠み始めて、短歌は奥の深い表現の形式だと気づきました。わずか31音の世界ですが、自分の想いや情景、経験したことなどいろいろなことを盛り込むことができます。短歌を詠むのは簡単ではありませんが、出来上がった時は何事にも代えられない喜びを感じます。我らが編集長masaさんに感謝。



短歌人からひとこと

masa

「短歌詠む仲間いるから楽しくて時間忘れて夜な夜なつぶやく」
ちょっとした内輪だけの夜な夜な短歌が、こんなにも広まるとは思っていませんでした。本当に日々、短歌を詠み交わす仲間がいるのはありがたいです。春につづき夏号も発刊できてうれしいです。参加・お手伝いしてくれたみなさんありがとうございます。



せんむさん

最近、気が向いた時に詠っています。
主に景色を眺めて、ふと詠いたくなります。



華さん

短歌を詠み始めて3ヶ月が過ぎました。仲間も増えて刺激になったり羨んだり嬉しかったりと、楽しんでます。夏号ということで、日本の夏らしい湿度の高いまとわりつくような歌になりました。読んだ人に何かを少し残す歌を詠みたいのです。仲間と読んでくれた皆さんに感謝します。



Juneさん

たった31文字に不思議と心の断片が現れてしまう。歌を詠んだり読むことで時折誰かと心がニアミスしてるよう。そして、歌の中では自由になれる。妄想を膨らませようと、道ならぬ恋をしよう
とね♪



雪さん

短歌を始めて3ヶ月が過ぎ、想いをことばに乗せて紡ぐ奥深さや、その難しさにさえもすっかり魅了されています。これからも短歌仲間のみなさんと、楽しく短歌を詠んでいけたらと思っています。



短歌人からひとこと



seriさん

短歌って、世界を切り取る小さな窓。大きすぎても小さすぎてもつまらない。三十一文字だからこそ、色がある。世界が変わる。心の角度を少しだけ変えて見る世界は煌めいたものでした。この新たなきらめきの世界へ手を引いて下さった皆様に目一杯の感謝を。

momongaさん

春号に続けて2回目の参加となり、仲間にも恵まれ、楽しむ以上の欲張りな気持ちが出てきました。

3首目は、「怪」をテーマに大好きなある小説を思い浮かべて詠みました。



レイさん

夜な夜な短歌集参加は二度目。前は少し抑えめだったので今回は自分らしさを出してみました。「それちょうだい〜」は夏の恋人同士あるあるです。ひんやりした後は熱い吐息が…。「夏の夜〜」も夏だからこそその短い恋。後悔と恍惚。「大量の〜」は怪談短歌。何に使ったかはご想像にお任せします。ありがとうございました。



※ 当歌集に掲載されている文章・画像等の無断転載はご遠慮下さい
使用する際は、事前に確認していただくようお願いいたします

※ 読書メーター内での歌集の紹介、レビューでの紹介は大歓迎です
短歌人たちも喜びますので是非広めてくださると嬉しいです

編集後記 & コミュ紹介



編集後記

第1号は勢いで作ったところがあったような気がします。ところが、第2号の夏号を作るとなったときに、妙なプレッシャーが出てきたのです。そんなときにメンバーのmomongaさん、華さん、レイさんが手伝ってくれたことが心強かったです。みんなの力があってからこそ、無事に発刊できたと思っています。参加メンバーも前号より増え、13名となりました。歌集参加して下さったみなさんへも感謝の気持ちでいっぱいです。また秋号もみんなで作っていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

masa@コミュ管理人

夜な夜な短歌コミュについて

『夜な夜な短歌コミュ』とは、読書メーターにあるコミュニティです。短歌が好き、短歌を詠みたいというメンバーが集まって日々交流をしています。みなさんも良かったら一緒に短歌を作ってみませんか？コミュはこちらになります。

[☆夜な夜な短歌コミュをみる](#)

夜な夜な短歌集春号について

第1号の春号をまだ読まれていないという方はチェックしてみてくださいね。短歌人の成長ぶりを見ることができる…かもしれませんよ。

[☆夜な夜な短歌集春号をみる](#)

